

関直美 『彫刻を生きる』 出版記念トーク

「美術と彫刻の同時代」

関直美vs三田晴夫vs宮田徹也

関直美氏の『彫刻を生きる』（論創社）の出版記念トークを行います。

関氏は、多摩美術大学・大学院で彫刻を学び、現代日本木彫フェスティバル大賞受賞、文化庁からアイルランドへ海外派遣など、彫刻家、現代美術作家として国際的に活躍しています。彼女が発表してきた文章と作品をまとめました。

他方、毎日新聞の美術担当として有名な三田晴夫氏が、昨年末800頁を超える大著を出版しました。30年の毎日新聞の美術評を網羅したもので、まさに「同時代批評」の集大成です。三田晴夫氏は、関直美の作品を高く評価しており、『彫刻を生きる』には、三田氏による関直美展の評が掲載されています。

そのため、関直美氏、三田晴夫氏、そして同じくこの本に関直美評を書き、三田氏の著書『同時代美術の見方』の書評を『週刊読書人』に執筆している美術研究・批評の宮田徹也氏の三者による鼎談トーク「美術と彫刻の同時代」を行います。いま、美術は、彫刻は、どうして、どのように面白いのかなどについて語ります。

日時：9月17日（日）14時

講師：関直美（美術家、彫刻家）
三田晴夫（美術ジャーナリスト）
宮田徹也（美術研究・批評家）

会費：1,540円(税込)

限定：60名

場所：青山ブックセンター 大教室 <http://www.aoyamabc.jp/>

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67-B2 T：03-5485-5511 F：03-5485-5601

表参道駅徒歩5分、渋谷駅徒歩10分。国連大学隣、マクドナルド横曲がり先下。

申込み：オンライン受付 <https://aoyamabc.jp/products/butou>

司会：志賀信夫（編集者、批評家）

※大事なお知らせ：手洗い・うがい、自宅を出る前に体温測定のご協力を必ずお願いいたします。熱がある場合、体調に異変を感じる場合は参加をお控えください。返金いたしますので、その旨をお伝えください。またマスクの着用を必須といたします。マスクを着用されていない場合、会場に入れませんので、ご注意ください。

関直美 Naami Seki
My life in Sculpture
彫刻を生きる

論創社

いま、彫刻がおもしろい！

ひとりの彫刻家、30年の彫刻家としての歩み、自身の制作・活動によって描き出す、70年代からの美術と彫刻の変化を、自身の制作・活動によって描き出す。

関直美『彫刻を生きる』
四六版上製、四色、144頁
2,400円＋税 論創社
ISBN978-4-8460-2280-8 C0071

◆関直美（せき・なおみ）

美術家、彫刻家。1974年多摩美術大学大学院修了（彫刻）。1973,74年行動美術協会奨励賞。1994年第4回現代日本木彫フェスティバル大賞。1998年文化庁海外派遣員としてアイルランド、リトリム・スカルプチャーセンター。2000年中国・上海で公開制作。2002年アイルランド「ロップブーラ国際彫刻シンポジウム」、2006年「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、2007年アイルランド現代美術館アーティストレジデンスプログラム。個展・グループ展多数。ダンス・深谷正子の舞台美術とコラボレーションなど、舞踏家・ダンサーとのコラボレーション多数。

◆三田晴夫（さんだ・はるお）

美術ジャーナリスト、美術評論家連盟会員。1948年福岡県戸畑市（北九州市戸畑区）生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。1974年毎日新聞社入社。社会部記者を経て毎日新聞学芸部美術担当記者として勤務。2008年退職後、美術ジャーナリストとして活動のかたわら、女子美術大学大学院、多摩美術大学、早稲田大学で現代美術の非常勤講師。著書『教養としての近現代美術史』（2019年、自由国民社）『同時代美術の見方 毎日新聞展評1987-2016』（2022年、藝華書院）画集内評論『中村宏画集 1953-1994 タブロー機械』（1995年、美術出版社）等。展覧会図録評論『イヴ・ダナ彫刻作品展』（1991年、国際教育学院文化事業部）『菊畑茂久馬一天へ、海へ』（1988年、徳島県立近代美術館）『彫刻林間学校展』（2017年、東京芸大美術館／軽井沢メルシャン美術館）等。『美術手帖』『月刊 ギャラリー』等に展覧会月評執筆。

◆宮田徹也（みやた・てつや）

1970年横浜生まれ。芸術批評者。日本近代美術思想史研究。嵯峨美術大学客員教授、日本大学芸術学部美術学科、日本大学経済学部、名古屋芸術大学、創形美術学校など非常勤講師。横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了。岡倉覚三、宮川寅雄、針生一郎を経て敗戦後日本前衛美術に。ダンス、舞踏、音楽、デザイン、映像、文学、哲学、批評、研究、思想を交錯しながら文化の「現在」を探る。著作『芸術を愛し、求める人々へ 芸術創造論』（論創社）、執筆論文等多数。『池田龍雄画集』著述目録・文献目録執筆（沖積舎、2006年）、「闘士、池田龍雄」『池田龍雄の発言』（論創社、2018年）など。

